

三豊市過疎地域持続的発展計画に関する中間評価に対する回答

No.	施策	意見	担当課	回答
1	2. 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成	第2次総合計画後期基本計画では、まちの将来像を「One MITOYO～心つながる豊かさ実感都市～」として、一極集中型のコンパクトシティを目指すのではなく、地域の特性を生かしたまちづくりをすることが掲げられている。また、人口目標には、「交流人口・関係人口の拡大」によって人口減少に立ち向かうとしている。域外との交流を維持・推進することで、さらなる交流人口や関係人口の拡大に取り組みたい。	地域戦略課	詫間町・仁尾町・財田町は、人口減少率に鑑みると過疎地域となっているものの、市内でも比較的、関係人口や交流人口が盛んな地域となっています。それぞれの地域の特長や魅力を伝えることで、域外の人にも興味を持ってもらい、その関係性が続いていくよう、情報発信に取り組んでまいります。
2	2. 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成	人口減少対策として、移住者を呼び込むことに力を入れるのか、地元の人が出ていかないような対策を取るのか、方向性をはっきりさせた方がいい。	地域戦略課	移住者の呼び込みと定住者の確保は、どちらも同時に取り組むことで人口減少対策として効果的であると考えますので、元々住んでいる人も移住してきた人も、誰もが住み続けたいと思えるまちづくりに取り組んでまいります。
3	2. 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成	学生等の若い世代向けに、まちの発展についてのアイデアを出し合うイベントを開催すれば、若者が興味を持つきっかけとなる。	地域戦略課	若者に地元への愛着を持ってもらうきっかけとして、まちづくりを考える機会を作ることは有用だと考えます。ご提案について、他課とも連携しながら検討してまいります。
4	2. 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成	県外へ出ていった人が帰ってきやすいように、Uターンを促進する支援が必要。	地域戦略課	Uターンの促進については、情報発信や地元就職支援、さらには、市外へ出る前の中高生へ向けた地元をより知って愛着を持ってもらう施策なども含めて、積極的な働きかけに取り組んでまいります。
5	7. 子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進	少子化対策として、子どもが生まれたことに補助をしてはどうか。	子育て支援課	少子化の進行に歯止めをかけるには、結婚や妊娠、出産に対する多様な価値観や考え方を尊重しつつ、誰もが希望する結婚や出産を実現することができる環境づくりが重要であると考えます。今後も寄り添った子育て支援施策や細やかなサービスの充実を図り、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりに努めてまいります。

6	12. 再生可能エネルギーの利用の推進	太陽光発電設備の開発については、安全面、防災面、景観や自然環境への影響が懸念されるため、規制できるような条例を整備してはどうか。	環境衛生課	クリーンエネルギーを創出する太陽光発電施設の普及促進は、脱炭素社会の実現に向けて重要な役割を担うものであり、同時に、安全性の確保や自然環境などを保全することも重要です。事業者が積極的かつ適正に太陽光発電施設を設置・管理するため、太陽光発電施設の設置に関するガイドラインを策定している県との緊密な連携協力を求めていると考えております。
7	その他	昼間と夜間の人口に差があることを市民が認識できるよう、データを公開すべき。	地域戦略課	市では、土地・人口・産業・経済・教育・文化などの幅広い分野にわたる基礎的なデータを収録した『みとよの身の丈』を毎年度発行しており、その中で、「昼夜間人口比率の状況」を公開しています。